

香港に在住する大学の同窓生有志が、「あしながおじさん・おばさんの会」を開いています。我々大学のOBが飲み代を負担し、若手（香港の大学生、同窓会の香港人、日本留学経験者、日系企業の社員）と交流を深めています。

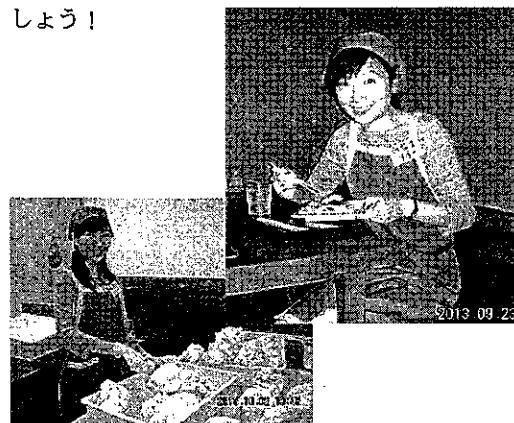
この交流会メンバーであるリリー・イムさん（トロント大学在学中に東京で留学の経験あり）が、この8月に、何をしようか迷っていると相談がありました。「私の故郷岡山へ行ってみては？」と勧め、「はい」となりました。高校の英語クラブに参加したり、うどん屋で無報酬ですが体験したり、初秋わずか1ヶ月の滞在。以下は、彼女からの報告です。

日本に来た理由は、やっぱり30歳になる前のクライシスです。仕事の契約は丁度終わったばかり、何をしようと考えると、若いうちにできることを。大学の先輩のおかげで、岡山に行くことを決めました。岡山に行ったことがなく、日本の田舎生活なんて想像もできなかったです。でも、到着して、すぐに気がつきました。岡山は小さくない、店も多い、交通も便利だし、のんびりしたい希望にぴったりでした。

先輩のお父さんは岡山で有名なうどん屋を経営していますので、この店を手伝いながら、生活を体験して、日本語を勉強するいいアイデアでした。でも、初めは、とても心配でした。日本語は、ぎりぎりですし、どうすればお客様に対応できますか？周囲の人は、多くの業務と食べ物に関する単語を教えてくれました。恥ずかしい場合を避けるために、その上、働く時「研修生」のバッヂをエプロンにいつも掛けていました。一所懸命メニューをおぼえても、わからない注文を受けたことも多かったです。そんな時に、お客様が言った言葉を頭の中に録音して、注文が分かるふりをして、

店の人にその言葉を再生します。お客様も私の存在がだんだん気になって、注文をゆっくりしてくれたり、私がわかるように話してくれました。例えば、「定食」は、2種類あります。おかずとご飯とうどんの組み合わせですが、うどんは温かくても冷たくともできます。「定食」と言ったら、どちらの定食か日本人は分かるのです。けれど、わたしはわかりませんでした。注文を間違わないために、おかしくても私はいつも「温かい定食か、冷たい定食か」と、お客様に聞きました。しばらくして、ついに私もわかつきました。「定食」なら、やっぱり温かいものでした。もし、お客様が冷たいうどんを食べたいなら、「ざる定食」と頼むのです。お客様は今でも「温かい定食」と言われます。私が広めたことがお客様の記憶に残っているのでしょうか。

うどん屋にいるから、もちろん毎日うどんを食べています。うどんはラーメンよりヘルシーです。特に手打ちうどんは最高だと思います。大好きなのは山かけうどんと海老天うどんです。毎日食べてもいやにならないです。柳生先輩、早く香港に支店を開いて、日本のうどん文化を皆さん紹介しましょう！



元コスモス・リスク・ソリューションズ  
マネージングディレクター 柳生 政一